



【事務局】

〒302-0034

取手市戸頭3丁目

TEL/FAX 0297-78-0516

メール npoikiru@infoseek.jp

<http://www7a.biglobe.ne.jp/~npoikiru/>

創刊号！！

ご挨拶

理事長 染野 和成

この度、皆様のたくさんのご協力を得、特定非営利活動法人「活きる」を2月28日に茨城県の認定を受け、活動を始めることになりました。

私たちの法人は、主に重度の肢体不自由と称される障害者の人たちと共に、社会へどのような形で参加できるかを考えていきたいと思っています。

そのために、まずは障害者の外出の一つの手段としての移送サービス事業を立ち上げようとしています。また、なかなか外出することが困難な人たちのレクリエーションも考えていきたいとも思っています。

とにかくやってみたい事はたくさんあります。皆様方のご協力を切にお願いしてご挨拶に代えさせていただきます。

小さな事から 3つの〇は愛
いたわりの心、命の尊さ



目的

この法人は、自立、経済活動を目指すとともに、障害者と地域が協働して、生活の場、働く場、などの基盤作りの活動を行うと共に、障害者が積極的に地域社会と触れ合い、世代を超えて交流できる環境を整備することを目的としています。

活動内容

- 障害者の社会参加と自立の就労支援（特例子会社制度・指定管理者制度・自社事業の開発に力を入れる）
- 在宅障害者の住宅環境整備（適切な住宅改修や福祉用具の選択、使用方法の指導）
- 障害者の「憩いの場」の提供
- 障害者の地位向上（積極的に参加し行動する）
- イベント企画・開催（障害者の社会参加、外出のきっかけ作り）
- 障害者生活相談（毎週月・水・金曜日 AM10時～PM2時取手福祉交流センターにて行っています。）

障害者と介護家族、そして支援するボランティアがお互いを理解し尊重しながら、同じ視点で、同じ目的を持って活動しています。

特 集 リ ハ ビ リ

8月7日、NPO法人「生きる」主催の「第1回 リハビリスポーツ」が取手市福祉交流センターで開催されました。



開会式



最初のランナースタートです



一輪車付車イス



二本橋見事わたり終わりました



車イスの技・・・披露 ス～イスイ！



なりの
ピード

次のようなうれしい感想が届きましたので紹介いたします。

”リハビリ時には、体調不良で車イスに座ることさえ稀なSさんですが・・・。スラローム等最後まで楽しんでいる姿を見ると「訪問リハビリは機能維持や改善だけでなく、もっと他のこともできないかな？楽しみを取り入れてもいいのではないかな？」と考えるよい機会になりました。今後も都合が合えば是非参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。”

Sさんからのメッセージ

入会理由 18年ほど前、退職後ボランティアの仲間に入って、動き回っている時にMさんから声を掛けられて、福祉センター「あけぼの」で身体障害者の方と一緒に活動されている「アウトグロー」に入れていただきました。その後活動の輪が大きくなって、“アウトグロー”→“地域に活きたい障害者の会”→“NPO 生きる”と引き続き皆さんと一緒に活動できることに感謝をしております。

期待するもの 皆さんの熱意と継続が、“生きる”の活動源です。実施から2年で、支援費制度から自立支援法に、また、介護保険制度の見直しと福祉制度の財政的な問題で、取り巻く環境が厳しさを増しています。

こんな時こそ、障害者支援のNPO活動が必要になってきます。取手市の障害者支援3NPO（たんぼぼ・らしん盤・生きる）が力を合わせて、それぞれの独自性を発揮して活動することを期待しています。

事業Ⅰ、当面、今取り組んでいる「移送サービス」の実現を目指す。そのためのスタッフの確保と事業能力の育成・資金源確保・関係機関や団体との協力体制づくり。

Ⅱ、指定管理者制度による、受け皿体制作り、何をやりたいのか、何が出来るのか、専門部会を作って、情報収集と併せて検討する。

Ⅲ、次のステップとして、特例子会社などによる働く場の確保と人材の育成、そのためにも会員や支援者の増強が課題。

スポーツ



スポーツ吹き矢
的に向かって矢を吹きます



ストローで輪ゴムリレー



うまく渡せるかな？



ビーチバレーボール



ボッチャ



「生きる」ロゴ入りシャツ

今回、参加された皆様、本当にお疲れ様でした。そして快くご協力くださいましたボランティアの皆様ありがとうございました。!! 感謝です。

「生きる」に入会して

H・S

今日は、Sです。広報誌の記事を書くのは、初めてですので文章が下手なのはお許してください。まずは、簡単な自己紹介から。1955年(昭和30年)7月8日生まれ、ほやほやの50歳(ハーフセンチュリー)です。取れたところは、新潟県十日町市です。昨年の中越地震で被害を受けたところです。幸いにも家族や親戚に怪我はなかったです。地震のあと、1ヶ月くらいはかなり心配しましたが今はすっかり落ち着きました。2001年11月、自宅の階段で転落、頸椎損傷で今の生活に。怪我をする前は、日本橋の呉服問屋に勤務。でも、色彩感覚やデザインの感覚は、まったくゼロと自負しております。

NPO「生きる」には、いろいろな人からの刺激とふれあいの楽しさ、さらに自分でできる技術の習得、些細な話のできる場、移送事業の確立、等々を期待し、少しでも役に立てればと思っております。これからも迷惑ばかりかけるでしょうが、宜しく願います。

「生きる」に入会した理由

T・E

「地域に活きたい障害者の会」発足当初から参加させていただき様々な経験をしました。

今は家の事情等で施設にいますが、また施設を出て暮らしたいという思いと、皆さんから口だけでもいいから参加して欲しいと言われ入会しました。が、取手を離れ4年。取手の福祉の現状が判らず口も出せません。

とにかく、何か役に立ちたいと心から思っています！



満理子さんとお茶をたのしむ会

前日の炎暑に代わって涼風がふいた6月29日の昼下がり、交流センターのコミュニティルームでNPO法人「活きる」の初めての催し、「満理子さんとお茶を楽しむ会」が開かれました。(なんと結構なお茶室があるのをご存知ですか?)

当日はNPO法人「活きる」のメンバーに加え、ふくろうの郷からも、ホットスペースからも、老若男女19名が集まりました。

はじめに亭主である満理子さんから「皆さん、ようこそ」と挨拶があり、早速お茶を点てて、お茶をおいしくいただくための、おまんじゅうを味わって、それぞれが一服、二服と頂戴しました。お茶の嗜みのある人もない人も寛いでおいしくいただくのがお茶の心得。

そこで、お点前もお運びも、入れ替わり立ち替わり、なんとも風変わりなお茶席になりました。

満理子さんこと宮脇満理子さんは、10年前にクモ膜下出血で倒れられて、2年半の入院、その後全身に重い後遺症が残りましたが、パートナーである貞夫さんの献身的な介護と機能回復訓練によって、今は少しずつ後遺症の改善が見られるとのこと。

聞けば若いころより茶道を習い、茶名も習得された腕前の由……。それでは、満理子さんの夢の実現を?と、この会の企画となりました。「ご感想は?」聞かれると「こんなとは違います」と笑わせながらも「病気によってたどたどしいしゃべり方になったけど生きていてよかった」と、ちょっとしんみり。

満理子さんは、ご主人のことをお父さんと親しみを込めて呼びます。そのお父さんのいつもの介助で、ゆっくりゆっくりお茶を味わいながら「とてもおいしいです」とお点前さんにお礼の言葉を忘れないのは、さすが講師の貫禄でした。

満理子さんとの出会いによって、また、人と人がつながっていったひと時、「今度は満理子さんの好きなピアノコンサートにしましょうよ」と、散会しました。

この日、おまけがひとつ。北海道から帰ったばかりの染野和成さんから、屈斜路川の源流をカヌーで下ったとの話を聞きました。

お抹茶とカヌー。この絶妙な取り合わせ、なんとも風流な。

—— 文字通りお茶をたのしむ会となりました。(K. M)



本日は、お忙しい中

お集まりいただき、

ありがとうございました。

☆☆ 支援費 あれこれ ☆☆

地域に活きたい障害者の会から

「障害者自立支援法」??・part 1

「生きる」への経緯

先日、衆議院の解散に伴い、廃案になりましたが、たち消えになった訳ではなく、この機会にガイドラインを見直す猶予ができ、動向を見守る必要があります。

現在までに厚労省から出されている法律の概要を説明する前に、まず、この法律の名称どう思います?? これから、厚労省が出した「改革のねらい」を中心に法律の概要を説明したいと思います。

【ねらい1！障害者の福祉サービス一元化】

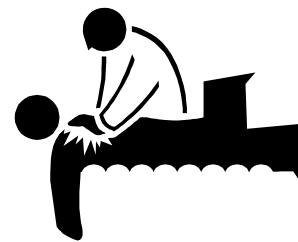
解説?? 障害の種類（身体・知的・精神）にかかわらず障害者の自立支援を目的とした共通の福祉サービスは共通の制度により提供。

独り言?? ヘェ〜ヘルパーやデイの職員の研修は今まで障害の類ごとに行ってきたよなあ〜。サービス内容も違ってたよね!? サービスを提供する側はいいとしても受ける側は大変だよ。今までダメ! って言われてたのがOKになったり、OKだったのがダメになったりするのだろうか? どっちにしても、もしかしたら自立の妨げになってしまうかもね。やっぱり「障害者自立支援法」ではなくて「障害者自立妨害法」になってしまうかもね。（優しいキューピット）

どうなる!??

平成15年度4月から、障害者がサービスを選択する「支援費制度」に変わり市町村窓口まで申請手続きに向いていました。いろいろな不都合もあり、マスコミなどでご存知のように支援費制度と介護保険制度が見直しされるようでしたが?。詳細は順次広報誌でお知らせしていきます。

H元.2	重度障害者のショートステイ施設の要望書提出
H元.5	残念ながら不可能の回答が届く
H元.6	地域に活きたい障害者の会 発足
H4.4	福祉マップ「とりでの街を車イスで歩いて見たら」発行
H6	福祉マップ「車イスで歩いて見たら常磐線・上野〜水戸」発行
H6.7	福祉センター「あけぼの」を利用して、自立生活の為の一泊体験実施
H10	障害者の「生活ホーム」勉強会・計4回
H10	福祉マップ「とりでの街を車イスであるいて見たらII」発行
H11	福祉マップ「車イスで歩いて見たら常磐線・上野〜水戸II」発行
H11	車椅子使用の講習・体験等の講師派遣
H16.11	「障害はブランド」すがやあゆみさんの講演
H16.12	NPO 法人「生きる」設立総会
H17.2	NPO 法人「生きる」スタート



デンクル日記 1

カヌー体験 ×月×日

昨日から北海道へ45回目の旅行。単独で空路、釧路へ飛び、空港から釧路駅までリフト付きタクシー、そこから釧網本線に乗り摩周駅。そして友人がリフト車で迎えに来てくれていた。夕べの少し飲みすぎた酒もなんのその、朝は気持ちよく目が覚める。

午前中は友人に連れられて喫茶店に行き、のんびりしていたのでそこで昼食。ふと壁に貼られていたチラシを見ると、取手の仲間と11月に行なおうとしていた、アーティスト・津久井克行さんのライブのチラシだった。マスターから津久井さんの人となり、歌の話で盛り上がった。11月がまた楽しみになった。

午後から今回の目玉であるカヌーに乗る。

ライフジャケットを着用しても水面に落ちたらうつ伏せになってしまうのは既に経験済み。そこで友人が考えてくれたのはビーチボールの空気を少し抜いておき、パンティストッキングの中に押し込み、その状態で腹部に巻く。これで水中に落ちても大丈夫?

カナディアンタイプのカヌーに3人で乗り込む。私は友人が作ってくれた特製のシートに座り先頭に陣取る。真ん中に私の体勢が崩れた時に直してくれる人、後ろにこぎ手。

屈斜路湖からスタートし、いよいよ釧路川の源流に入り込む。静かだ。何の音もしない。耳に入ってくるのは鳥のさえずり、水のせせらぎ、それに風の音だけだ。国立公園の中ということもあって川にある倒木さえも、簡単には取り除くことは出来ない。倒木の下をくぐると水鳥の親子が7羽。自然、という言葉の意味が今回、本当に判った気がした。

わずか45分のツーリングだったが車の騒音が聞こえてきたところで終わった。

また釧路川に会いに来よう。

好きな言葉

私の前に道はない・私の後ろに道はできる

高村 光太郎作

「生きる」 に入会して (Kさんからの便り)

たくさんのNPOがあるなかで肢体障害者の活動できる場を探していたらSさんから「生きる」の話を聞き、多少遠くてもお仲間に入れてほしくてやって来ました。健康であっても、障害者であってもおなじ人間です。永い人生いつ病気になりいつ事故にあうかわからないし、ねがって障害者になる人はいません。誰にでも心があるように思いやりをもって、この世は生存共栄であることを自覚してほしく、「生きる」に共鳴しました。

これからの、数々の予定・行事に「憩いの場」を求めて皆さんと行動したいと思いますのでよろしくお願ひします。



カタクラショッピングプラザ

サマーコンサート に参加して

7月31日、カタクラショッピングプラザ・サマーコンサートにNPOらしん盤、「生きる」が共同で参加しました。

「生きる」では吹き矢をやり、スイセンの球根・たまねぎ日用品・雑貨類等を販売し、収益をあげました。

初めてのイベントとしては上々の出来と思います。収益金はカタクラショッピングセンターを通じて善意銀行へ寄付しました。

活動会員・賛助会員を募集しています

一緒にNPO「生きる」を考えてみませんか
一人でも多くのご参加をお願いします。

活動会員 個人・年会費 2,000円
団年・年会費 3,000円

賛助会員 個人・年会費1口1,000円 1口以上
団体・年会費1口2,000円 1口以上
(活動・賛助会員は総会議決権はありません)

銀行口座 関東つくば銀行 新取手出張所
普通預金 NO1030441

郵便振込み 10650-41405021

どちらも口座名義は「特定非営利活動法人生きる」

秋の主な行事予定

- 9月18日 電車に乗って出かけよう
- 10月8・9日 有償福祉移送サービス技術講習会
- 10月22日 健康福祉祭り カレンダー出展予定
- 10月30日 第2回リハビリスポーツ
- 11月26日 津久井さんのコンサート♪♪～
生演奏は迫力がありますよ、楽しみですですね!!

編集後記

多くの方のご協力により第一号をお届けすることができました。いかがでしょうか。暦の上では立秋でも、まだまだ暑い日が続きますので、お体には十分ご注意ください。水分は必要ですが多少の塩分も必要みたいですよ。

皆さんの意見・身近な情報など、愉しく伝えられる窓口でありたいと願っていますので、あなたの声をお聞きかせくださいばうれしく思います。

NPO 法人生きる 『窓 開けて』

2005年8月25日発行

発行所 NPO 法人 生きる

発行者 染野和成

編集者 宮脇・染野・鈴木・河口・石浜・工藤

連絡先 T/F 0297-78-0516

E-mail npoikiru@infoseek.jp

URL <http://www7a.biglobe.ne.jp/~npoikiru/>